

経済・金融
フラッシュユーロ圏失業率(2023年12月)
—失業率は6.4%、低い水準を維持

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

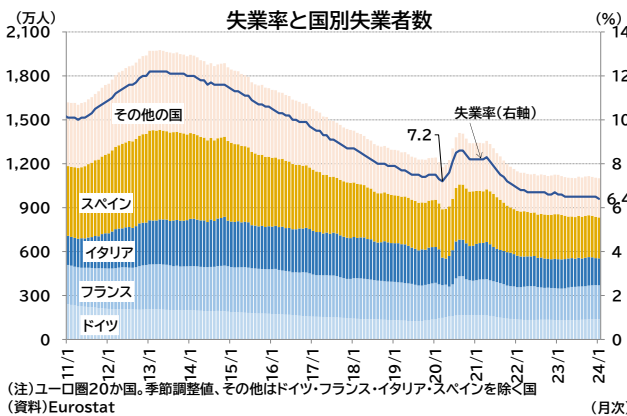
1. 結果の概要:失業率は過去最低の6.4%

3月1日、欧州委員会統計局（Eurostat）はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

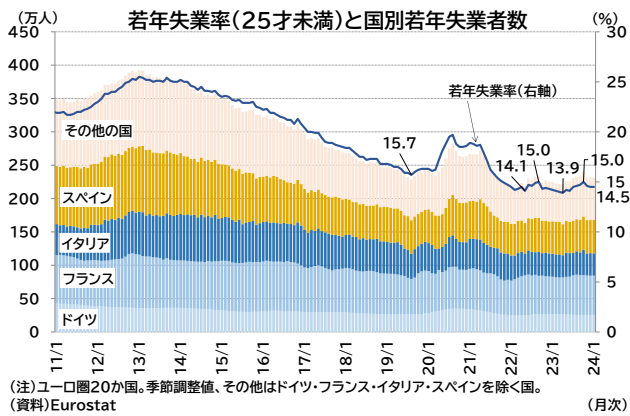
【ユーロ圏失業率（20か国、2024年1月、季節調整値）】

- ・失業率は6.4%、市場予想¹（6.4%）と一致、前月（6.5%）から低下した（図表1）
- ・失業者は1100.9万人となり、前月（1104.3万人）から3.4万人減少した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:総じて低水準の失業率を維持

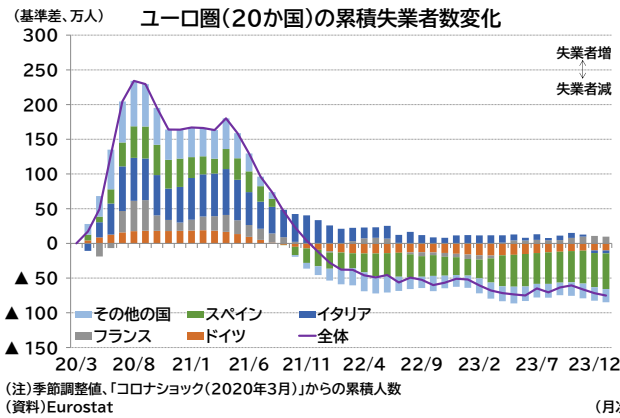
ユーロ圏（20か国）の1月の失業率は6.4%となり、23年12月（6.5%）からやや低下、統計データ公表以来の最低値となった。なお、先月公表されたデータでは23年6月、11月、12月も6.4%を記録していたが、今回公表された数値でいずれも6.5%に改定された。失業者数は1月の前月差で3.4万人減となり、3か月連続で減少した（図表3・4）。主要4か国では、ドイツ（0.0万人）が横ばい、フランス（▲1.1万人）、イタリア（▲0.4万人）、スペイン（▲2.2万人）が減少だった。

1月の若年失業率は14.5%で、23年12月（14.5%）から横ばいだった。なお、若年失業率も過去データはやや悪化方向に改定された（23年12月の改定前14.4%→改定後14.5%、11月14.5%→14.6%、10月14.8%→15.0%など）。若年失業率は23年4月（13.9%）をボトムにやや上昇したが、10月に直近ピークとなる15.0%を記録した後は14%台半ばで横ばい推移している（前掲図

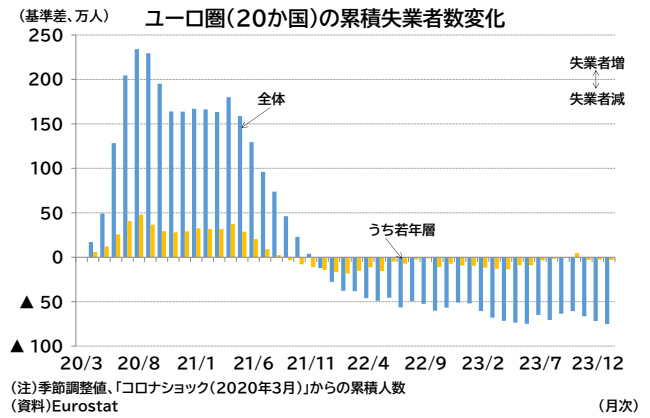
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

表 2)。若年失業者数は1月で231.5万人(前月差▲0.4万人)となり前月比で減少、ちょうど12月の増加分(+0.4万人)だけ減少した形となった。若年失業者数の水準はコロナショック直前(20年3月の234.6万人)をやや下回る状態で推移している(図表4)。

(図表3)

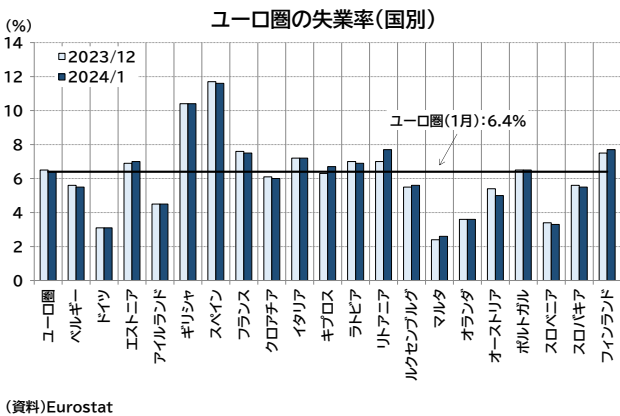


(図表4)

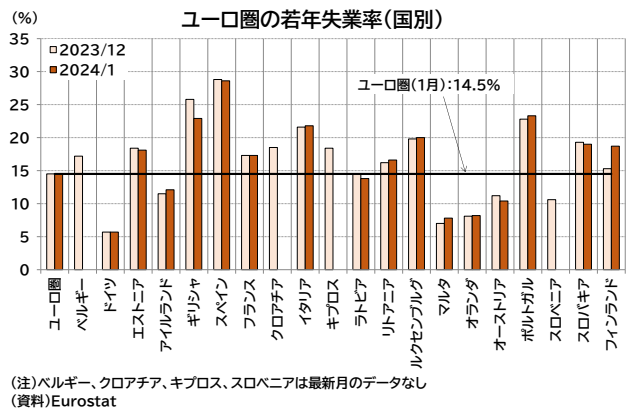


国別の1月のデータを見ると、失業率は20か国中、悪化した国が6か国、改善が8か国、横ばいが6か国となり(図表5)、総じて低失業率を維持している。若年失業率はデータが公表されている16か国中、悪化した国が8か国、改善が6か国、横ばいが2か国だった(図表6)。

(図表5)

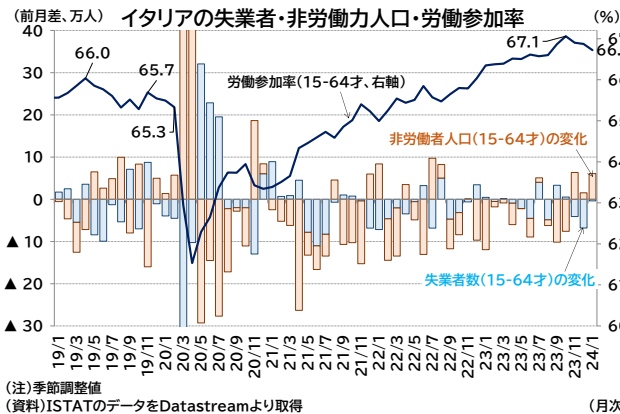


(図表6)

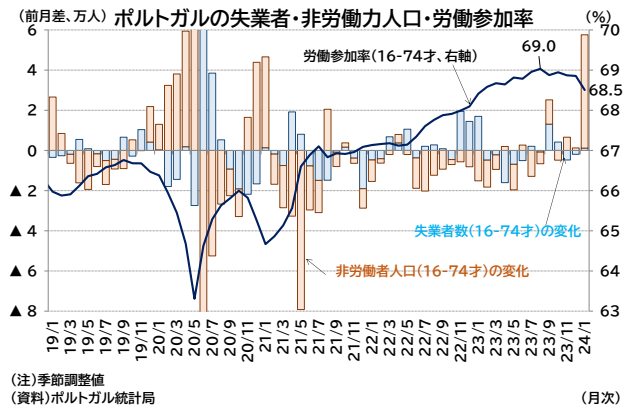


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアは失業者が減少したが、就業者も減少し、非労働力人口が増加した(図表7)。一方、ポルトガルは失業者、就業者、非労働力人口がいずれも増加した(調査対象人口全体が増加、図表8)。労働参加率はいずれの国もコロナ禍後のピークからやや低下している。

(図表7)



(図表8)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。